# ゲストプロフェッサー招聘報告書

2010 年 6 月 4 日
受入れ教員氏名　谷田一三

１．ゲストプロフェッサーの氏名：
２．ゲストプロフェッサーによる大学院の授業（サイエンスコミュニケーションなど）：
(i)科目名：サイエンスコミュニケーション
(ii)日時：5 月 21 日
(iii)講義タイトル：Scientific publication process
(iv)出席学生数：　70 名
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：
科学的論文の構成の基礎を提示し、イントロ、方法、結果までのまとめ方を紹介した。「Topic of sentenses」で、内容を構築する。イントロはワイドな視点から、研究対象と内容に視座を絞り込むことで、研究の位置づけを明確にする。

(i)科目名：サイエンスコミュニケーション
(ii)日時：　5 月 24 日
(iii)講義タイトル：Scientific publication process
(iv)出席学生数：　65 名
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：
科学的論文の構成の基礎を提示し、結果から論議、結論までのまとめ方を紹介した。また、謝辞や引用文献の範囲なども具体的に紹介された。議論は研究の目的、結果の間の連関性、過去の研究との差異と同一性が基本の構成で、イントロとは逆に狭い部分から論議を広げていくのが基本。イントロ、方法について、仮に課題を設定した発表を一部の学生が展示。また、編集者、校閲者との具体的なやりとりも例示した。

(i)科目名：サイエンスコミュニケーション
(ii)日時：5 月 27 日
(iii)講義タイトル：Scientific publication process
(iv)出席学生数：　70 名
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：
学会での口頭発表の手法の紹介。いかに落ち着くか、発表用の優れたドラフトの書き方も紹介した。学生の半数以上が、宿題とされていた「学会会場での自己紹介」を 45 秒程度で行った。印刷に至る過程の校正技術、出版社とのやり取りも紹介された。

(i)科目名：
(ii)日時：
(iii)講義タイトル：
(iv)出席学生数：
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：

3. ゲストプロフェッサーによるその他の大学院の授業（カリキュラムにない科目）：
(i)日時：
(ii)講義タイトル：
(iii)出席学生数：
(iv)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：

４．ゲストプロフェッサーによる講義以外の大学院生への教育（プレゼンテーション指導、実験指導、ディスカッションなど）：
(i)日時：5 月 20 日―21 日
(ii)対象学生数：5 名
(iii)教育内容（単語ではなく具体的に書いてください）：
谷田研究室で多くの調査を実施している奈良県東吉野村の調査サイトを訪問し、田中亜季（Ｄ３），ロドニー（Ｍ１）などが実施している現地調査を行い、方法や取りまとめについて、現地での指導を受けた。

(i)日時：5 月 23 日
(ii)対象学生数：１名
(iii)教育内容（単語ではなく具体的に書いてください）：
兵庫県豊岡市で実施されているコウノトリを中心とした自然再生事業実施地区を訪問し、現地指導を受けた。

(i)日時：5 月 17 日―31 日
(ii)対象学生数：5 名
(iii)教育内容（単語ではなく具体的に書いてください）：
各大学院生が取りまとめ、あるいは計画中の研究について、個別に指導を受けた。
田中亜季　間隙性ベントスの採取法について
ロドニー　バイオモニタリングをめぐる研究テーマについて
平　祥和（非常勤研究員）　ナガレトビケラ幼虫の機能生態学と系統関係について　など

(i)日時：5 月 25 日
(ii)対象学生数：15 名
(iii)教育内容（単語ではなく具体的に書いてください）：
谷田研究室を石原研究室の学生、院生、研究員が、各自の研究内容を紹介し、個々の発表に招聘教授が、詳しくコメントした。また、一部の学生については、より簡潔で明解なスライドするか、個別指導を実施した。

５．ゲストプロフェッサーによる学部の授業（講義課目）：
(i)科目名：生態学Ⅰ（基礎生態学）
(ii)日時：5 月 31 日

(iii)講義タイトル：「川と湖の働き」　How rivers and lakes work
(iv)出席学生数：45 名
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：
河川と湖沼の生態系を比較しながら、その構造と機能の特徴を紹介した。講義に使われた基本的なキーワードは、次のとおり。
streams　支流などの小さな川、rivers　規模の大きな川、concentration　濃度、substrate　基質、permanence　永続性、turbulence　乱流（かき乱される流れ）、flow　流れ、流入、evolutionary　進化的な、adaptations　適応、適合、variation　変化、変異、isolation　分離、隔離、biological energy　生物学的エネルギー、food webs　食物網、phytoplankton　植物（性）プランクトン、diatoms　珪藻、nutrients 栄養塩、algal　藻類の、fungal　菌（類）の、bacterial　細菌の、periphyton　付着藻類、capture net　捕獲網、shredders　破砕食者（かじって食べる）、collectors　採集食者（網でこし取ったり沈殿物を集めて食べる）、grazer　刈取食者（刈り取って食べる）、predator　捕食者、upstream　上流の、downstream　下流の、productivity　生産性、respiration　呼吸（作用）、Functional feeding groups、採食方法で分けたグループ（摂食機能群）、Logging　伐採、continuum　連続体(性)、stratification　階層化、pollution　汚染、oligotrophic　貧栄養型の、eutrophic　富栄養型の、monitoring　継続して観察すること、zooplankton　動物（性）プランクトン、Benthic macroinvertebrates　底生無脊椎動物、sensitive to pollution　汚染に敏感な、tolerant to pollution　汚染に耐えうる、stonefly　カワゲラ類、mayfly　カゲロウ類、dragonfly　ヤンマ類、damselfly　カワトンボ、イトトンボ、amphipod　ヨコエビ類、caddisfly　トビケラ類、beetles　甲虫類、true bugs (Hemiptera)　カメムシ類、midge　ハエなどの小昆虫、earthworm　ミミズ、Reconnaisance　予備調査、Pilot study　予備実験、exclusion　排除、Elevated　高くなっている、uncontrolled variable　制御できない、phosphate　リン酸塩、acidity　酸性、acid rain　酸性雨、sedimentation　沈殿（作用）、堆積（作用）、Landslide　地滑り、primary succession　一次遷移、mesocosm 中型実験系、microcosm 小型実験系、macrocosm　大型実験系

(i)科目名：
(ii)日時：
(iii)講義タイトル：
(iv)出席学生数：
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：

６．ゲストプロフェッサーによるその他の学部の授業（フレッシュマンセミナーなど）：
(i)科目名：
(ii)日時：
(iii)講義タイトル：
(iv)出席学生数：
(v)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：

７．ゲストプロフェッサーによる研究者または一般向けの講演：
(i)日時：５月 22 日
（ｉｉ）**講演タイトル**: "Biomonitoring of the Unknown: Conducting Large-Scale Programs in West Africa and Southeast Asia".
未知の世界のバイオモニタリング（生物学的監視）：西アフリカと東南アジアの大規模プロジェクト

をめぐって
(iii)出席者数：23 名
(iv)講義の概要（日本語で 100 字から 200 字程度）：
西アフリカで実施されたオンコセルカ（ブユが媒介する眼病）の駆除事業に係わるバイオモニタリングの紹介。ブユ用の殺虫剤の河川への散布が、生態系にどのような影響を与えるかを、ベントスを中心に調査した。大規模ダム計画のあるメコン川について、事業前のモニタリングが流域委員会によって実施された。その内容などの紹介があった。

# Evaluation Sheet of Guest Professor Program, Graduate School of Science, Osaka Prefecture University

*The following information will be used as a reference material for our evaluation of the program. We appreciate your kind cooperation. We appreciate your sending this form by e-mail to kiriye@mi.s.osakafu-u.ac.jp, Prof. Kouyemon Iriye, Graduate School of Science, Osaka Prefecture University.*

1. If there are comments or advice for the graduate students who took your lecture in "Science Communication", we appreciate your writing them below.

2. If there are comments or advice for the graduate students of your host professor, we appreciate them.

3. If there are comments or advice for the undergraduate students who took your lecture, we appreciate them.

4. If there are comments and suggestions for our program, we appreciate them.

5. Can we make this sheet open to the public? [YES or NO]

Name _____ Date _____

Thank you